〔文献紹介〕 松本歯学 19：85～90, 1993
key words：蘭学事始 ― 杉田玄白 ― 緒方富雄 ― 書誌学

杉田玄白の蘭学事始と緒方富雄との関係についての書誌学的考察

小林茂夫
松本歯科大学長

枝　重夫
松本歯科大学　口腔病理学教室

Bibliographical Considerations on the Relationship Between Genpaku Sugita's "Dawn of Western Science in Japan" (Rangaku Kotohajime) and Tomio Ogata

SHIGEO KOBAYASHI
Dean of Matsumoto Dental College

SHIGEO EDA
Department of Oral Pathology, Matsumoto Dental College

Summary

"Rangaku Kotohajime" was written by Genpaku Sugita in 1815, and is very important to understanding how Dutch languages and science, especially medical one, came to Japan. Therefore, "Rangaku Kotohajime" is usually translated as "Dawn of Western Science in Japan". About 180 years have already passed since its appearance, so it has become difficult to read.

Dr. Tomio Ogata, Professor of Pathology, Tokyo University School of Medicine, made popular the book by publishing the following two different books: one is composed of original sentences with many added explanations, and the other has been translated into modern Japanese.

緒　　言

ドイツ人クルムス(J. A. Kulmus)著のいわゆるターヘル・アナトミア（Tabulae Anatomicae）のオランダ語訳〝オントレードクンディヘ・ターヘレン〟(Ontleedkundige Tafelen, Amsterdam, 1734)を日本語に訳したのが〝解体新書〟で，1774年（安永3年）に出版された．杉田玄白の回想録〝蘭学事始〟にその翻訳時の苦心談が載っている

本報の要旨は，第34回松本歯科大学学会（1992年6月13日）において発表された．(1993年2月24日受理)

ことは周知の通りである．この蘭学事始は，1815年（文化12年）に完成したが，いくつかの写本は作られたものの，ついに出版には至らなかった．半世紀以上も経った1869年（明治２年）に，福澤諭吉の盡力によって，木版本として初めて公表されたのである．最近，本書の復刻版が出たので，比較的で入手しやすくなったのは結構なことであった（図１，２）．しかし広く普及させたのは，1930年（昭和５年）に初版が出た野上豊一郎（校註）の蘭学事始（岩波文庫）である．これは好評で版を重ねたが野上の死後は，1959年(昭和34年)から病理学者であると同時に蘭学者でもある緒方富雄が校註者になって，現在でも発行を続けている．緒方が野上の後任者に選ばれたのは次に述べるように，彼は以前から蘭学事始にかかわっていたからである．すなわち，彼はすでに本書の現代語訳を試み，1941年（昭和16年）に最初のものを出版している．この本は３回の改定の後，1984年（昭和59年）に完成した．以上の如く，緒方富雄は，蘭学事始について，〝校註〟と〝現代語訳〟の２つの仕事をしたことになる．これらを，書誌学的観点から紹介してみたい．

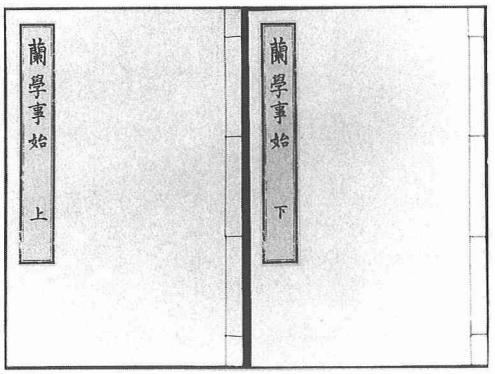

図１：復刻蘭学事始の表紙
左：上巻　右：下巻

図２：復刻蘭学事始
左：扉　右：見返し

校　註　版

１）杉田玄白著，野上豊一郎校註：蘭学事始．102頁．岩波文庫665，岩波書店，東京．1930年７月10日，初版(図３左)．前述の明治２年に発行された木版本を底本として活版で復刻し，野上が解説や校註を行ったものである．さらに明治23年に発行された木版本の再版に付された福澤諭吉の〝再版の序〟が載っている．この文中には手書き本発見やそれを読んだ時の感激，木版本の初版発行に至るまでの経緯などが述べられている．

２）同上．1940年10月１日，第13版(図３右)．内容的には校註が少しふえた程度で大差はないが，表紙に〝野上豊一郎校註〟が追加されている．ちなみに初版では，扉にはそれが明記されているものの表紙にはそれがない．なお何版から表紙にも校註者名が記されるようになったか未調査であるが，手持ちの第８版（1936年９月20日）ではまだ表紙にはない．

３）杉田玄白著，緒方富雄校註：蘭学事始．130頁．岩波文庫5005，岩波書店．1959年３月25日，第１刷(図４左と同形)．1950年に野上豊一郎

図３：杉田玄白著，野上豊一郎校註：蘭学事始．岩波書店
左：初版（1930年）表紙には著者名のみ
右：第13刷（1940年）表紙にも校註者名が追記

図4：杉田玄白著，緒方富雄校註：蘭学事始．岩波書店
左：第16刷（1977年）青帯，学の字は旧字体
右：第36刷（1988年）絵入りアート紙のカバー

が亡くなったので，緒方富雄が校註者になり大改定を行ったものである．敗戦後なので，書名など横書が右から書かれているのは当然である．改定の主なものは，本文を，明治2年の木版本から，それに考証と訂正を加えた〝（復原試作）蘭学事始〟（1951年）を底本としたこと，および校註をより詳細なものにし，年表を付け，解説を書き直したことである．この中で緒方は，1890年（明治23年）に発行された木版本の再版に際し，その序に福澤諭吉が書いた〝神田孝平が本郷湯島の聖堂裏の露店で見つけたものを初版の底本としたが，これは杉田玄白の自筆本で世にある唯一のものである．〟としたのは誤りであることを指摘している．すなわち後になって，これが玄白の自筆本ではなく，また他にも古い写本がいくつか存在することが判ったというのである．前述の如く本文について若干の改定を加えたのもいくつかの写本を比較検討した結果による．

4）同上．196頁．1988年5月10日，第36刷（図4右）．漢字が旧字体から新字体に変り，青帯のかわりに，絵入りアート紙のカバーになっている．この体裁になったのは第38刷（1982年3月16日）からしい．なお，このカバーの背の下に350と記されているが，手持ちの第42刷（1992年4月15日）をみると，これが410に変っている．

5）杉田玄白著，緒方富雄校註：蘭学事始．196頁．岩波書店，東京．岩波クラシックス28として1983年4月8日に発行された初版（図5）．大きさはB6判で，岩波文庫の大形化，ハード・カバー，帯付の特装版である．

図5：杉田玄白著，緒方富雄校註：蘭学事始．岩波書店．岩波文庫の特装版，B6判，カバー，帯

現代語訳版

1）杉田玄白著，緒方富雄訳：蘭学事始．179頁．築地書店，東京．1941年8月30日，初版（図6，図7左）．四六判．ハード・カバー，ケース付．〝はしがき〟によると，緒方富雄は，日本の科学がどんな環境から育って来たか知るうえで，杉田玄白の〝蘭学事始〟が〝科学事始〟として読まれなければならないと考え，そのために，現代の人々に読み易いように，この古典を現代語に翻訳しようと思い立ったようである．本書はこうしてできあがったものであるが，本文以外に，大槻玄沢が書いた〝杉田玄白略伝〟の口語体訳と詳細な本文の〝解説〟が付いている．なお図6に示した初版の扉に書かれている献本相手の小川鼎三は，東京大学名誉教授，順天堂大学教授で，専攻の解剖学以外に，医学史の研究でも知ら

れ，本報に関連した著書としては，"杉田玄白"（国土社，1956年），"医学の歴史"（中央公論社，1964年），"解体新書，蘭学をおこした人々"（中央公論社，1968年）がある．

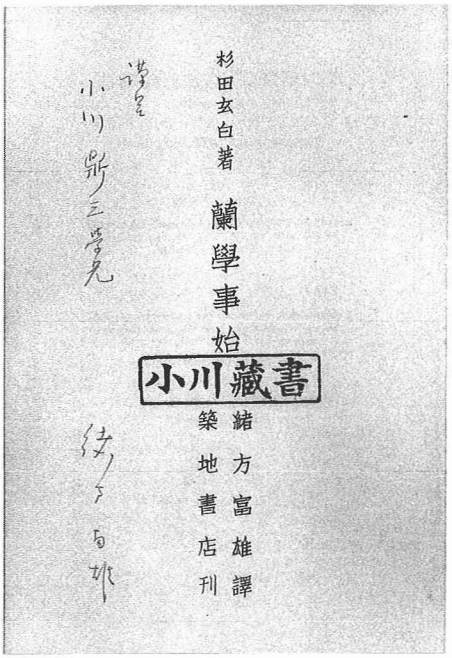

図6：杉田玄白著，緒方富雄訳：蘭学事始．築地書店，初版（1941年8月）の扉．ペン書き署名

2）同．1941年12月8日，第2版(図7右)．初版の後，3か月あまりで発行された．内容は全く同じであるが，発行所名が築地書店から大澤築地書店に変っている．またよく見るとケースの表紙と，本の背では，杉田玄白のあとに初版にはない"著"が追記されている．しかし不思議なことにケースの背と本の扉には，初版，第2版ともに"著"が付いている．

3）杉田玄白著，緒方富雄訳：蘭学事始．177頁．学風書院，東京．1950年3月1日，初版（図8）．四六判．ハード・カバー，カバー付．表紙の絵は"解体新書"の扉絵からとったものである．当用漢字や新かなづかいになり，文章もさらに読み易くなっている．しかし当然のことながら漢字は旧字体である．この現代語訳の一部が中学校の教科書に採用されるところとなり，広く一般に知られるようになったわけである．解説は大澤築地書店版以後の

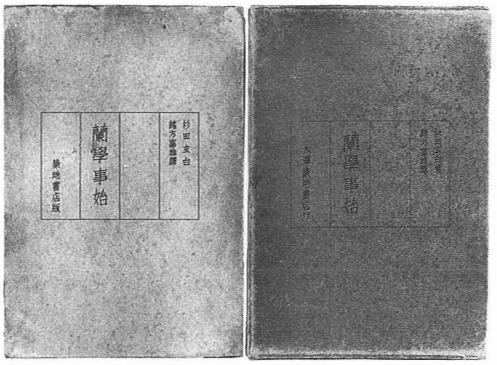

図7：杉田玄白著，緒方富雄訳：蘭学事始のケース
左：初版（1941年8月），築地書店，"著"なし．
右：第2版（1941年12月），大澤築地書店"著"あり．

図8：杉田玄白著，緒方富雄訳：蘭学事始．学風書院，初版（1950年）のカバー．この絵は"解体新書"の扉絵からとったもの．

研究成果をとり入れて大幅に変っている．例えば校註版の3）に述べた如く，神田孝平が発見した"蘭学事始"は杉田玄白の自筆本ではなく写本であること，また他にも古い写本がいくつかあることなどである．敗戦後間もない出版なので紙質は悪いし，発行部数も少なかったようで，現在では稀覯本となってい

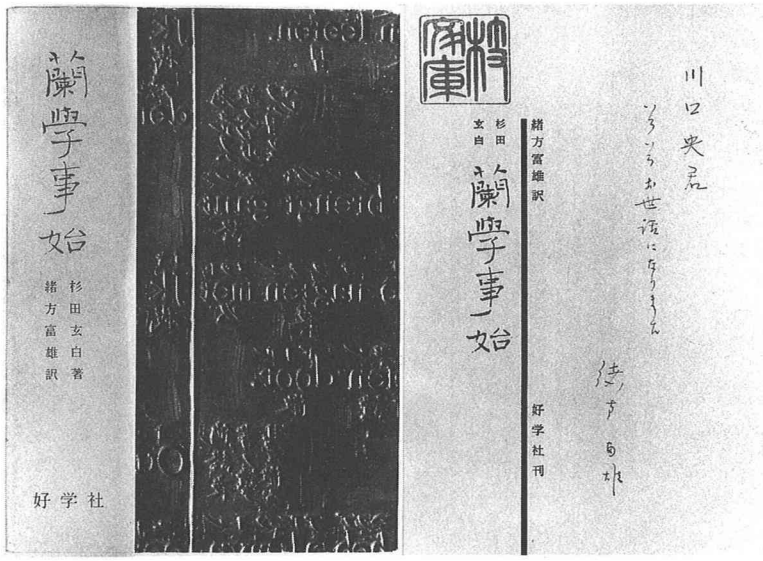

図９：杉田玄白著，緒方富雄訳：蘭学事始．好学社，初版（1959年）
左：表紙カバー　右：扉，ペン書き署名

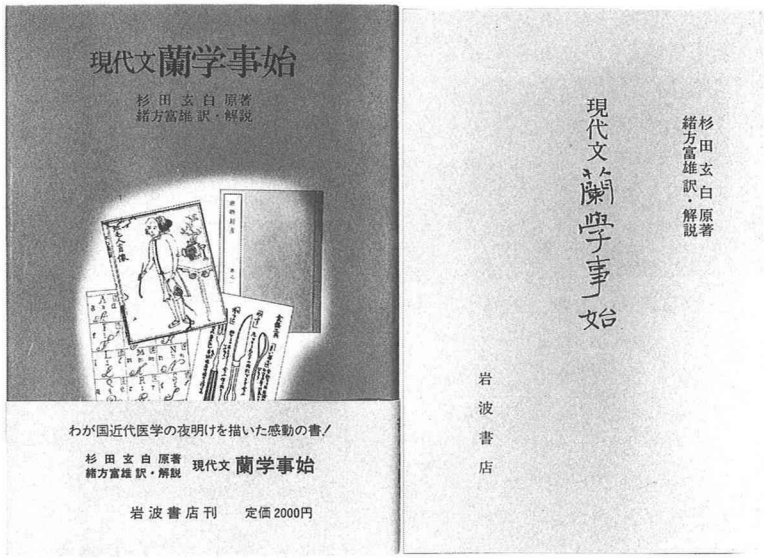

図10：杉田玄白原著，緒方富雄訳・解説：現代文蘭学事始．岩波書店，初版（1984年）
左：表紙カバー，帯　右：扉　蘭学事始は森鷗外の書

る．なお，奥付に記されている書名は，"現代語釋蘭学事始" となっているが，書誌学的には，正式な書名は扉に記されているものということなので，ここには採用しない．

4）緒方富雄訳：杉田玄白蘭学事始．219頁．好学社，東京．1959年10月１日，初版(図９)．四六判，ハード・カバー，カバー付．扉に杉田玄白の肖像画がカラーで入り，本文中にも多くの図が挿入された．漢字は新字体になり，紙質もよくなっている．この年の３月に，緒方は岩波文庫の蘭学事始の校註者にもなっているので(本報の校註版３)参照)，本書の"は

しがき″にも彼の蘭学事始に対する意欲が読みとれる．解説の中で，解体新書の扉絵の図案（図8参照）が，原書のターヘル・アナトミアのそれと全く違っていることに関し，ワルエルダ（Valuerda）の解剖書のオランダ語訳本(1647，アムステルダム)の扉絵をもじったものとしてその絵を示しているが(194頁)，同じくワルエルダのオランダ語解剖書の1614年アントワープ版の方がよく似ている(前記，小川：解体新書，57頁)．図9右に示した緒方のペン書きにある″川口　央″は，本書の出版社である好学社の社長である．署名について，先の図6のものと比較してみると，18年の差があるにもかかわらず全く変っていないのはさすがである．表紙カバーおよび扉に示された書名の″蘭学事始″の手書き文字は，カバーの折り返し（裏側）によると森鷗外の自筆からとったものである．なお，本書において，カバーでは，″蘭学事始　杉田玄白著，緒方富雄訳″(表紙，背とも)，本の表紙では，″蘭学事始　緒方富雄訳″，背では″杉田玄白著　蘭学事始　緒方富雄訳″，扉では，″緒方富雄訳　杉田玄白　蘭学事始″，奥付では″現代語訳蘭学事始　訳者緒方富雄″となっており，不統一であるが，前記した通り扉のものを優先させた．

5）杉田玄白原著，緒方富雄訳・解説：現代文蘭学事始．244頁．岩波書店，東京．1984年6月27日，初版(図10)．B6判．ハード・カバー，カバー・帯付．まさに決定版ともいうべきものである．すでにふれたように今までは″現代語訳″という語が奥付だけに付されていたが，本書になって″現代文″が，カバーの表紙と背，帯，本の背（表紙には何らの文字はない)，扉，奥付の全てに付けられた．初めて認知されたわけである．扉の蘭学事始は4）と同じく森鷗外の自筆からとったものである．本書が校註版のハード・カバー特装版より1年遅れて，それと同じ岩波書店から出版されたことにある種の因縁を感じる．″あとがき″に記されているように，この2冊は同じ″蘭学事始″ではあるが，校註版の方は，原文を厳格に校註し，その原文の背景を解説するものとし，現代文版の方は原文の文体の理解に困難を感ずる人のために，可能なかぎり現代文に直したものである．従ってこの2冊を適当に読み分けることによって″蘭学事始″が真に理解できるといえよう．なお本書では，前書に掲載されていた1647年版ワルエルダ解剖学の扉絵が削除されて，単に解体新書の絵扉は″ワルエルダ（Valuerda）の解剖書の絵扉の図をもじったものである．″という解説だけにとどめている．

結　　語

緒方富雄が前記2種の″蘭学事始″を完成させたのは，1984年，彼が83歳の時である．現代語訳版の″あとがき″に「わたしの仕事も，これが最後かもしれない．」と記しており，その5年後の1989年（平成元年）に88歳で死去した．一方，杉田玄白は，亡くなる3年前の83歳の時に蘭学事始を書き上げ，「未だ世にある絶筆なり」（この世に生きているうちにと絶筆のつもりで書いた）と付記した．よく似た心境と言うことができる．

本文でも述べた如く，緒方は日本の近代科学が西洋から導入された一つの手段としてオランダ医学があるとし，″蘭学事始″を″科学事始″として読まれなければならないと考えている．このような意味をふまえて，蘭学事始の英訳は“Dawn of Western Science in Japan”となっている（校註版の4，5）．

追補　校正中に次の2書を入手できた．

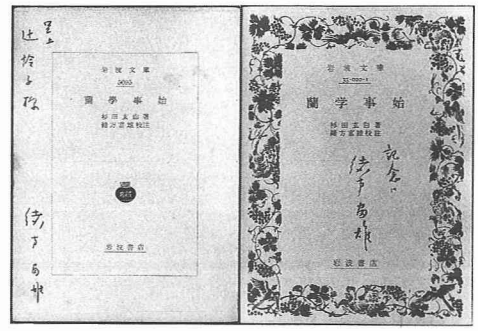

図11：緒方富雄校註：蘭学事始．岩波書店
左：第1刷（1959年）の扉．ペン書き署名．130頁
右：第28刷（1982年）の表紙．筆書き署名．本書において改訂・増補して，196頁になる．